

KSKQ あかねニュース No. 104

NPO 法人障害者地域生活応援団あかね

Tel 072-755-4101

〒666-0017 川西市火打1丁目12-16

Fax 072-744-5822

ホームページ akanesan.net E-mail: rassyai-akane@deluxe.ocn.ne.jp

こんな話



会社勤めの娘と、その母親との会話です。(夏夜の夜の7時近くなってもまだ外は明るい。)

「お母さん、ただいま。いまそのお墓(＊)でね、おばあさんに会ってね、財布を落として家に帰れないと困っていらしたんで、お金貸してあげたの。『へえ、いくら?』『〇〇円。だって千葉の田舎だっていうんだもの、遠いでしょう』『そりや大層なご出費でしたね、今月はお小遣いが減るね』『しょうがないよ、でもそのおばあさん、自宅の住所まで書いて渡してくれたんだよ。返してくれると思うなあ』『そのおばあさんで、もしかして和服着た、けっこう品(ひん)のいい人じゃなかったかい?』『そうよ。…なぜわかるの?』」

ここで母は突然、大声で笑いこぼしました『じつはね、私も今日のお昼に、お墓でそのお婆さんに会ったんだよ、それでね、話を聞いて△△円渡したの。アハハハハ…』『ええっ!?!…同じおばあさんに?!…それじゃあ私たち二人とも、だまされたの!?イヤだ、アハハハハ』『私はのっけから信用しなかったけどサ、あげたつもりで渡したヨ。でもあんたは貸し

たつもりだったんでしょ?』『だっていい人そうに見えたんだモン。でも傑作だね、親子して騙されたなんて、アハハハハ』『アハハハハ』……。

…彼女からこの話を聞かされた、同じ会社の私(まだ若手社員でした!)もアハハハハと大笑いしましたが、「でも、いい話じゃないか、普通なら腹立てて憤慨するところなのに、親子でアツケラカンと大笑いして済ませるんだもの、宵越しの金は持たない江戸っ子気質(かたぎ)そのものじゃない?」「そうなのよ、きつと、お金持ちじゃなかったからだろうね。お金持ちだったら多分、血相変えて交番へ届け出てるわ」「そうだね、そんなものだろうね」

(＊染井霊園という、ソメイヨシノ発祥の地でもある東京・駒込のお墓)

私がこの、50年以上前の話を思い出したのは、今年の5月、平成から令和になって間もないころに新聞で、こんな話を眼にしたからでした。

埼玉県に住む或る医療関係の責任者をしている先生が、所用で出張していた沖縄(このかたの出身地でもある)からの帰り道、空港駅に着いたモノレールを降りようとすると、焦りながらポケッ

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日) 発行 頒価 定価 一〇〇円

トやバッグの中を探す学生らしい青年の姿が目にとまりました。「どうしたの?」と声をかけると『財布が見当らないんです、どこかで落としたらしいんですけど、航空券を買う金が入っていて』『そりゃたいへんだ、どこまで行くの?』『与那国島です。親戚が亡くなって葬式に行くんです』『ますます大変だね、チケット代はいくらなの?』『往復で6万円…』消え入りそうな声でしよげかえる青年に、先生は(だましかな?)と一瞬思ったものの、どう見ても金を目当てにひと芝居打っているとは思えず、『わかった、貸してあげよう。早くチケット買って、お葬式に行つてあげなさい』所持現金の大半をしめるその金額を青年に渡し、恐縮して平身低頭する彼に名前を告げる間もなく、自身も急いで東京行きの搭乗ゲートに走りしました。

私のほうから「貸してあげよう」と云ったんだ』『それだったら名前とか連絡先とか伝えるでしょう、恩人に』『沖縄工業高校の学生だ、と云うのは聞いたけどね。名前とか聞いている時間が無かった。こっちも乗り遅れたくなかったしね』『君の名は、みたいな場面だなあ。まあどっちにしても、金は戻らないでしょうね』先生もさすがに「そうかなあ」と思い始めていたところ、事態は予想外の展開を見せます。無事葬儀に間に合った青年は、帰宅するとすぐに地元新聞2社に連絡し、「尋ね人(恩人探し)」の記事を書いてくれと頼みました。その記事はネットにも載りました。まち拡散、ついに先生の同僚の眼に止まり「先生、載ってますよ!早く名乗り出なぐちゃ!」:いちどは諦めかけていた先生も、これには驚くと同時に大感激したそうです。全国紙がこの話を社会面で大きく報じ、その10日ほどのちに実現した沖縄での両者の再会も「プレゼント交換」の写真入りで掲載されました。各紙の論調はいずれも「今日のご時世ではめったに聞かれない“美談”」というスタンスで

共通していました。

この話が「美談」として社会に歓迎的に受け入れられたのはもちろん、昨今の荒廃しきった世相にうんざりしている読者や視聴者が、その反動として日ごろから「美談」を希求渴望していたからであり、この話題に飛びついたマスコミは機を見るに敏であった、ということだと思えますが、当事者である先生はコメントで『なぜ(新聞やネットで)このように騒がれるのか判らない。私は当たり前のことをしただけ。もし私でなくてもあの場に居合わせたら誰でもそうしたはず』と云われています(これがまた、さらに“ニクイ”ところですが)。

たしかに6万円の持ち合わせが無くて、空港の職員が航空会社のスタッフに事情を話して救済措置をとってもらった青年に勧める(気が動転している青年には、とっさにそのような選択肢が思いつかない)などの方法は取りうるので、「あたりまえ」と云われればそのような気もしますが、やはりとっさの判断を「実行に移す」というところに難しさがある

(ある意味での「勇気」を必要とする) のでしょう。一方、恩を忘れずに悪条件 (恩人の手掛かりが無い) の中から「尋ね人さがし」を実行した青年にも「今どき珍しい誠実な好青年」との賛辞が寄せられていると聞きます。この行為は先生の行為よりさらに「あたりまえ」のことで、借りた金 (金額の多寡に関係なく) を返すことなど当然中の当然なのですが、借りた金を返さないことのほうが当然、と云わんばかりの世の中になってきているから、この行為が賛辞を浴びることになるのです。この話に登場する「先生」はおそらく、金を貸すときに「戻らなければ戻らなくても、それで良い」と思っておられたのでしょう。或はその青年の誠実そうな様子に「「騙し」ではない」雰囲気を読み取りつつも、彼がどこまで誠意を見せるかを確認したくて、あえて名前も住所も告げなかったのかな、という気がします。

そして、冒頭の話に出てきた親子は、これは明らかに「騙されて」金を取られたのですが、母親はほとんど「確信をも

って」騙されたものの、娘は「もしかして返してくれそうな」雰囲気をお婆さんの中に感じとり、うっすらとした信頼の紙包みになるんでお金を渡したのでしょう。50 年以上も前に聞いた話ですが、彼女の、お婆さんに対する淡い信頼は、当時はまだ「借りた金は返す」ルールが今ほどは踏みにじられていなかった、ということの証しなのかもしれません。

「あかね」のメンバーたちは、人をだますことは決してしません。たまに、自分にかまってほしいときに「あたまがいたい！」などと云ってスタッフの注意を引いたりすることはあっても、しよせん悪意のあるものではありません。それよりも私たちは、彼らが「だまされやすい」ことのほうが心配です。彼らが騙されやすいのは、人を疑うことをしないからです。人を信頼することしか知らない、と云ったほうが適切かもしれません。

あかねのメンバーがこれまで、これ

といった事故にもあわず被害もなく過ごしてこられたのは、彼らを取り巻く皆様の善意の見守りがあればこそその幸運でした。皆さま、これからも、もしどこかで「見知らぬ誰か」に騙されそうになっている、あかねのメンバーをたまたま見かけられたら、どうぞ守ってやってください。

なにとぞよろしくお願い申し上げます。

(芳川 雅美)



こんなはずじゃなかったら？
歴史がぼくを問い詰める

先日、市から『移動支援 (ガイドヘルパー)』の事業所に伝えたいことがある。」という話が舞い込んできた。さっそく日を決めて障害福祉課に赴いてみると、話の中心は「市としては今後『重度』の障害のある人については『移動支援』ではなく、『行動援護』の制度を利用するように促していきたい」ということだった。うちの移動支援事業所は行動援

護を受けられる事業所ではなく、今後その要件を満たす事業所となるためにはハードルが高く、また、うちの事業所を利用する障害当事者のうちで行動援護に該当しそうな人はたぶん A さん一人くらいしかないだろうということで、事業所としての対応はしないことで方針は決まったのだが(もちろん今後 A さんへの移動支援は質量ともに保障する)、この話をきっかけに自分の中でこのところずっとモヤモヤしていたものがまたぞろムクムクと居心地が悪そうに動き始めてきた。(そもそもこの発想自体は市の負担を少なくしたいという市当局の思いから出発していることはもちろんだがそのことに対するモヤモヤではない。)

それは大きくいつてしまえば「今から、40 年ほどまえ、僕らが(あるいは障害当事者が)望んだものってこんなものだったのだろうか?」というモヤモヤである。40 年ほど前、私は京都で学生生活を送っていた。そのとき、ひよんなきっかけで京都で「青い芝の会を作る」という運動にひっきり「健全者」(あの頃はこう

呼ばれていたように記憶している)としてかわるようになった。そのころは障害者運動は「障害者が自らの存在を命を懸けて社会に問いかけ、社会を障害者も健全者も「共に生きる」世の中に変えていこう」という運動だったと思う。その中で私自身は運動の中枢にかかわるのではなく、一介護者として京都・大阪・兵庫などの障害当事者の移動や泊りなどの介護をしていたにすぎないのではあるが、まがりなりにも私自身もそんな社会を目指していたことは自分なりに確かだと思っている。

さて、今の状況はどうなのだろうか? 自分は 40 年弱の教職員生活のかたわら「あかね」の動きに引っかけたきただけの人間であるからエラそうなことは何も言えないのだが、今回、「行動援護」云々の話に関係して、事業者や介護者の要件について調べてみて、「これってどうなん?」と感じてしまった。事業所としての要件はもとより、介護者としての要件が極めて厳しい。

従業者の要件…次の(イ)または(ロ)

(イ) 行動援護従業者養成研修課程修了者又は強度行動障害支援者養成研修(基礎研修及び実践研修)修了者であつて、知的障害者・知的障害児又は精神障害者の直接支援業務(入浴、排泄、食事等の介護、調理及び洗濯の家事)に 1 年かつ 180 日以上の従事経験を有するもの。

(ロ) 居宅介護従業者(下記参照)の要件を満たす者であつて、知的障害者・知的障害児又は精神障害者の直接支援業務(入浴、排泄、食事等の介護、調理及び洗濯等の家事)に 2 年かつ 360 日以上の従事経験を有するもの
※(ロ)については平成 33 年 3 月 31 日までの経過措置

《介護従業者の要件》

・ 介護福祉士、実務研修修了者、介護職員基礎研修修了者、居宅介護従業者研修 1 級又は 2 級課程修了者、居宅介護職員初任者研修修了者であつて 3 年以上の介護等の経験を有する者、看護師、准看護師

私が何が言いたいのかお分かりにならない方も多いのかもしれない？あるいは「お前言うてることはまるで無責任な話で障害当事者の人権から考えても要件が当たり前のこと」と言われるのかもしれない。あるいは、「従業者の要件を厳しくすることは、プロとして相応の賃金等を保障することに繋がるのだからむしろ歓迎すべきである。」と言われるのかもしれない。「うーん。」確かにそうかもしれないのだけれど・・・。

私が40年前なんともなく夢見ていた共に生きる社会とは一言でいえば「一億総介護者」の世の中であつたように思う。実際私自身は何の資格もなく、研修も受けない中で介護生活に追われていたし、川西にガイドヘルパー制度自体がなく自主制度として金銭をつけて介護派遣をしていた時もこんな大仰な要件はなかった。それでもなんとかやってきた。今は移動支援にも、従業者への要件が設けられているし、全身性、知的、視覚とそれぞれに養成研修が義務付けられている。そして、私の知る限りではそれぞれの研修には数万円の受講料がかかる。ここにあるのは障害

者介護のプロ化である。プロ化が必要な面ももちろんある。責任もって障害当事者の生活を支えていこうとする人たちは、そのことで生活ができることが不可欠だろう。「しかし」である。介護者のプロ化は、本場に「共に生きる」世の中につながっていくのだろうか？「ボランティアは障害当事者の体に触れてはいけない。」などという都市伝説のような話も聞こえてくる。

私自身は、去年まで別に仕事を持ちながら、自分の都合や相手との関係などの中で、ひと月のうち何日かガイヘルや宿泊訓練の世話人としてかわつてきた。今は教職を退いたので別の仕事はないのだが、それでも今後ともこれまでと同じようにかかわっていこうと思っている。実は私のようなかわり方の人間がたくさん障害当事者のまわりに存在するような世の中が私は好きである。(もちろん私の好みなど障害者の生活には関係ないのだが)今の制度の中では、私みたいなかかわり方で「これから新しく」

障害者にかかわりたいと思う人間は、介護者にはなかなかないのではないだろうか。障害のある人たちと介護をとおしてかわるというシステムはある一定の人たちだけに開かれ、この世の中のごく普通の人たちに対しては「閉じられたシステム」になってしまったのではないだろうか。

移動支援に限られたことではない。かつて障害者運動は、外に向かつて突き出し、広がる運動であつたように思う。私たちの共働作業所あかねも単なる地域の小規模作業所であつたころは、世の中に対してとげとげしい存在であつたと思う。しかし、就労継続Bという制度に取り込まれる中で丸くなってしまったかもしれない。グループホームもまたしかりかもしれない。

教職時代の経験からみるまでもないが、よほど注意しないとプロの存在はまわりから人を遠ざける。私たちの模索は続いていく。

(光岡 正章)

自分達で未来を描ける

あかねケーキへ…

遅かった梅雨入りの一ヶ月ほど前に今年もある協会から総会の引出物としてあかねスイーツ詰め合せの御注文を頂いた。今年は設立三十周年との事、例年の三倍の三千円をいつもより多い一七〇箱のご注文・・・さあ、大変！

品物の選定、それを詰める箱、包材・・・。例えばドリップコーヒーパックを一箱に三袋入れる。一七〇箱で五一〇袋。

まずその外袋にはお手製消しゴムはんこを押す。この作業を担当したメンバーは最も見栄えが良くなるようどの辺りか自分で決めると、まるで印刷したかの如くきちんと押していく。8グラムのコーヒーを量りドリップパックに詰め熱封をし、外袋に入れ再び熱封をする。この作業五一〇回！いちごジャムはといえば透明の袋に入れ、可愛いリボンで結んでいく。小さな蝶々結びはなかなか難しいが黙々とこなしているといつの間にか作業に参加している人数がふえている。「これ

でいい？」「OKよ！」

クッキーもカットケーキもいつも以上におしゃれをして仕上がっていく。途中、職業体験、トライやるに來ていた中学生も加わって一緒に作業をしてくれた事もあった。余裕をもって納品できるような仕事の段取りを組んではいるものの普段ケーキに従事しているメンバーでも予告なく休むとポツカリ穴があく。でも大丈夫、他にもできる人がいるのだ。

着々と作業は進み最後にあかねスイーツの入った大きな箱を包むだけとなった。さすがにこれは私達職員の出番だと思い取りかかり始めたところ、じっと見ていたメンバー達が「やってみたい！」と皆で包み始めた。表裏の確認、包む時の角々のフィット具合等々、職員の私達でもなかなか手ごわいのだが真剣にアドバイスを聞きながら、一七〇個包み終える頃にはとても上手になっていた。素晴らしい！

総会当日納品場所である大阪市内の

ホテルの一室に紙袋に入れ完成した一つ一つの工程を皆で力を合わせて作り上げていった事が走馬灯のように思い出され、その数の多さ存在感到圧倒され感動した。職員の指示のもと黙々と作業をこなしてきたメンバー達が労働というものにもっと責任が持てるよう夢が持てるようになるには・・・？

私の夢はメンバー達でグループを作り一つ一つ自分達の手で作り仕上げ、時にはアイデアも出し、今日はどれくらいの量を作れたか計算し、販売していく事。道のりはちょっと遠く厳しいが準備を始めようと思う。仕事は色々な意味で「人生を豊かにしていくもの」と彼らと共に感じていけたらと思う。人としてのバイタリティーハングリー精神を持てるよう私自身も年令に関係なくいつまでもそれを忘れぬように一緒に取り組んでいきたい。

私の孫は療育手帳を失いかけていたがれっきとした「障害を持つ子供」である。その彼が「ボクは将来何をしている

のか知りたいなア。それがわかれば今から精一杯努力するんだけだなア・」と呟いた事がある。彼は子供なりに制度には守られないであろう自分の立場と向き合い将来を切り開こうと思っている。梅雨もあけ、暑い夏がまたやってきた。さあ今年はどうな事が待っているかしら・・・・楽しみ！
(長尾立子)



ガイドヘルパーやってみませんか

今日は移動支援を利用して出かけている山川君(24)の一日をご紹介します。と思います。彼は、あかねの移動支援を利用して18年近くの大ベテランです。

朝、十時前、ヘルパーが自宅まで迎えに行くと、待ちきれない様子で途中までお母さんと一緒に歩いてきてくれます。その日の希望は「京都」です。山川君は行先の希望を自分ではっきり伝える事ができ(ヘルパーによって変えているよう

ですが)、電車が好きなのでそれを中心に、京都、西明石、京橋、閑空、尼崎、和歌山をよく希望し、毎週一度は出かけています。正確にいうとテレビや情報誌、ネットなどを自分で調べるといふ事はできませんので、今まで、たくさんのヘルパーさん達と一緒にいったところで、お気に入りか、心に残っているところを言っているようです。20年以上の大ベテランですから、もちろんこれ以外にもヘルパーさん達に行先を考えてもらい、かなり広範囲で動いています。

さて、ヘルパーと出会ってから、お母さんに「行つてきます！」をして、JRへ：。まずは、「緑の窓口」で目的地までの切符を購入。なれたもので「療育手帳」を出し(手帳を提示するとヘルパーと2名分は料金が半額になります)、手に握りしめた500円玉をバラバラと出し、ヘルパーと一緒に着(笑)。そして、ホームへは必ずエレベーターで降下、先頭もしくは後方で、運転手さんに手を振るといふ手順を踏み、いざ乗車！尼崎で一度下車し、電車を乗

り換えるのも忘れてはいけません。電車内では、駅名を順番に言い、車内モニターのCM説明や、女性の運転手さんに手をふるのも欠かせません。ある程度の手順が終了すると、静かに鼻歌まじりに車窓に心馳せています。

ガイドヘルプ京都編では、昼食はヨドバシカメラのハンバーグ(ヘルパーによって変えています)です。ライスとパンを選ぶのにいつもとても悩み、二つ頼んで店員さんを困らせます。昼食後は、京都スカイバス(市内周遊バス)に乗車、これも「療育手帳」があれば料金が半額で利用できる。山川君も楽しめているようです。最近、外国人観光客が増え、バスも日本人は山川君ベアのみでしたが、全く怖れることなく「こんにちわ！」と叫び、周りから「OH〜！」とびっくりされていました。下車後は、またもや京都駅の「緑の窓口」に並びチケット購入。この「緑の窓口」も外国人がほとんどで：一度、山川君のリュックをみている間に、例の「こんにちわ！」と前の人に大声を出したので「すいません」

とヘルパーが顔をあげると・・・首から、腕からびつしりとタトゥーの入った映画に出てくる海兵隊の人ですか？というように大マッチョさんがおり、笑顔で山川君とハイタッチ、ヘルパー、ひきつりながらハイタッチ・・・忘れられない思い出です。帰りはガタゴト電車にゆられながら、京都から西明石行きに乗り、尼崎で乗り換え・・・それまでに、今から西明石へ行く、丹波路快速に乗って三田まで行く、三宮に行きたい、運転手さんが手を振ってくれるまで頑張る・・・とヘルパーと最後の一悶着が終わる頃に川西池田に着。途中までお母さんがお迎えにきて、「お母さんだっ」と叫んで走っていく姿は、子供の頃から変わりません。

前述のとある山川君の一日だけみると、ヘルパーと、とても楽しそうに、毎週遠足にでもいつているかのごとくのように感じられるかと思いますが・・・この背景にはただ楽しいだけではなく、彼の抱える問題も（家庭事情など）踏まえ、週一回必ず必要な外出であるという現実

があり、そのためには、少しでも多くのヘルパーが必要となっています。

現在、あかねの移動支援は、ヘルパー不足が問題となっています。特に男性ヘルパーの不足については、近年、深刻化してきています。あかねでは、単純に男性利用者が増加した事もありますが、福祉業界全般的にも男性ヘルパーは絶対数が不足しており、また高齢化なども考えられると思います。不足している部分は、女性ヘルパー（前述のエピソードも実は異性介護になってしまっています）やグループのガイドヘルプ（男女混合）で対応しているものの、本来であればお手洗いや、体力的な問題なども含め、同性のヘルパーが好ましいのは否めません。

この問題は、他の事業所でも大変大きな問題となっているようで、新しい移動支援の受け入れができず、断られた利用希望者さんの話も聞いたことがあります。

移動支援のヘルパーとなるためには、専門の資格が必要となり、取得のための

費用も必要となります。最近、興味があると連絡をいただく事も増えたと感じる時もあります。残念ながら「ではお願いします」と簡単にお願ひできるものでもありません。我々やヘルパーを必要とする人達をとりまく環境は、前述のとおり簡単ではありません。それでも、あかねは、ご興味のあるかたはおられませんかとお願ひしたいと思います。

障害の重い、軽いは関係なく、一人では出かけられない、本人の気持ちの問題、家庭の問題、いろいろな事をかかえた人達が、日々の暮らしの必要性、また、広い世界を経験をしたいという希望をもって、一緒に歩いてくれる人を必要としています。お仕事を定年退職され、ちよつと興味あるわと思われる方などおられないでしょうか？単純にヘルパーってなに？一緒にでかける？ハードル高いなあ、ボランティアやったら・・・というかた、ご相談ください、そして一度、作業所をのぞきにきてください。あかね一同、心からお待ちしております。

（竹内 佳子）

子ども食堂あかね日記

2月から始まった「子ども食堂あかね」も5月、6月も大盛況のうちに、一区切りを迎えました。この間、全十回の開催で、のべ四百五十人の子どもたちや保護者の方が参加してくれました。「子ども食堂あかね」はケーターリング方式で、運搬中の温度管理に若干不安があるため、いったんお休みをもらいます。

「家庭的にしんどさを持った子どもたちにとっては、夏休み中が心配と聞くけど、その時期に休むの？」確かにその通りです。給食のない夏休みは、そうした子どもたちには「危険」な期間になります。そこで、私たちは夏休み中は『宅配子ども食堂』をやることにしました。子ども食堂と同じ内容の食事をお弁当にして、子ども食堂と同じ値段(子ども一〇〇円・大人三〇〇円)で、必要とする家庭・子どもたちに直接届けることにしたのです。チャシは地域の3小学校にお願いして就学援助家庭に配っていただくことにしました。今、少しずつ注文が入り始めています。

一方、学習支援については7月から8月初めの一週間「夏休み宿題おわらせ会」を開催します。こちらも、現時点での申し込みが58名に達し、毎日37人ほどの出席になりそうです。子ども食堂のボランティアさんをはじめ、高校生などにも声をかけてできるだけだけの態勢を作って子どもたちの宿題の手伝いができたらいいなと思っています。この間賛助会費をはじめとして、様々な方たちからたくさんのカンパをいただきました。改めてお礼を申し上げます。また、川西市の市民提案型共同参画事業に認められ8万円の助成をいただけることにもなりました。他の助成金についても申請しています。

子どもたちはこれから社会を担っていく存在です。しかし「その中で生きづらさを抱えた子どもたち」は残念ながらこれからもきつと増えていくことでしょう。

「子ども食堂」は、様々な理由で十分に「食」が保障されない子どもたちが地域で育っていくために、この社会から「格差」や「貧困」がなくならない限りは、「ごく当たり前に地域に「在りづづけるべき社会資源」なのではないか」と思います。「子ども食堂」は利益の出る事業ではありません。ですから、どうしたらこの事業を継続して続けていけるのか、私たちは真剣に考えなくてはなりません。行政への働きかけは全国の仲間とともにこれから、もちろん強めていきます。そして、みなさんも、今後とも「子ども食堂あかね」を支えつづけていただけるようお願いいたします。

もうすぐ夏休み。どんな子どもたちが「夏休み宿題おわらせ会」にやってきてくれるでしょうか。そして「宅配子ども食堂あかね」は十分にその役割を果たすことができるでしょうか？そして、9月の10日には、また「子ども食堂あかね」が開催されます。そんな様子は、これからご報告させていただきます。(子ども食堂担当光岡正章)

あかねの活動報告

敬称略

	6 月	7 月
イベント	緑台陽明コミュニティ体育祭 地域児童環境育成フォーラム 兵庫県民局販売 兵庫県庁ぬくもりマルシェ	グリーンハイツふれあいサロン 清和台夏まつり・光風台まつり グリーンハイツサマーカーニバル 東谷夏まつり・北小学校夏まつり 栄光園まつり・多田商工会まつり 久代児童センター祭り
行商	能勢電鉄平野駅販売（月）（水）（金） 川西養護学校 こやの里特別支援学校 阪神特別支援学校 小学校（明峰・陽明・清和台・北陵・ 久代・川西北・多田東・猪名川・ 多田・加茂・清和台南・松尾台 つつじが丘・大島・けやき坂・ 東谷・川西北・緑台） 中学校（多田・中谷・緑台） 幼稚園（久代・川西北・東谷・ 川西・多田・清和台） 子ども園（牧の台みどり）	能勢電鉄平野駅販売（月）（水）（金） 川西養護学校 こやの里特別支援学校 阪神特別支援学校 小学校（久代・多田・清和台・北陵 つつじが丘・清和台南・東谷・ けやき坂・牧の台・陽明・加茂 松尾台・川西） 中学校（明峰・東谷・川西・緑台・ 猪名川・清和台） 幼稚園（藤が丘・久代・多田・ひかり 清和台・川西・川西北・東谷） 子ども園（加茂・牧の台みどり）
子ども 食堂	キセラ川西：学習支援と共に実施 11 日（火）26 日（火）	宅配にて支援実施 23 日（火）30 日（火）
学習支援	緑台：5 日 12 日 19 日 26 日（水）	夏休み宿題終わらせ会（キセラ川西 及び緑台にて）7 月 29 日～8 月 2 日
その他 活動	関西よつ葉連絡会 注文書折込 同 ふるさと広場販売 毎週（火） 川西市役所・古江台ホール販売 川西能勢口 藤の木公園販売 特別養護老人ホームポプラ販売 ダイハツ工業販売 コニカミノルタ伊丹販売	関西よつ葉連絡会 注文書折込 同 ふるさと広場販売 毎週（火） 川西市役所・古江台ホール販売 川西能勢口 藤の木公園販売 特別養護老人ホームポプラ販売

あかねの活動報告

毎年恒例一泊二日の旅〜あかね飛行機に乗るの巻

6月29日（土）・30日（日）、あかね旅行にいつてきました。昨年に「キセラ川西プラザ」に移り、初の旅行という事で、今回はなんと飛行機で「長崎！」へ…。朝7時、川西能勢口に総勢30名のあかね軍団が集結！早い集合でしたが、遅刻、欠席無しやる気満々（笑）そして、伊丹空港へ。しかしこの日は、なんとG20の世界会議のため各国の要人が来日、厳重警備の中あかね軍団といえは…「次の電車やでっ」、「もう、おさんといてよっ」、「前みて歩くっ」等々、そして警察官には「こんにちわっ」とあかねスマイルでご挨拶（笑）飛行機に乗る事については作業所でも心配はありました。ボディチェックや荷物検査でパニックにならないか飛行機自体に乗れるかと思案していると…メンバー達はパラパラと搭乗ゲートに集まり一角を占拠、その後すました顔でおむすび、サンドイッチ食べる、スタンドバーで「エムっ」等と言いつつながらコーヒー買ってきて飲む、そこら中で撮影会開始。心配をよそに「しれ〜」と搭乗、長崎に到着しました（数名緊張メンバあり）。他にも多々エピソードありますが、ご紹介できなくて残念です。

今回にご参加いただいた皆さん、ドリーム観光の工藤さん、本当にお世話になりました。雨風湿気の三拍子揃いで天候には恵まれませんでした、一緒に楽しんでくださって、本当に心に残る旅行になったと思います。ありがとうございました。

🌻🌻🌻🌻🌻 ~寄付金・カンパのご報告とお礼~ 🌻🌻🌻🌻🌻

西田直樹様・高木佳子様・北山千恵子様・高橋ミチエ様・吉田千津子様
井上恵子様・三好嘉代様・團野節子様・沼田キクエ様・岡本美幸様
浜岡咲花様・浜岡容子様・ホームギャラリーマーケット参加者の皆様・
関本隆様・小西トキエ様・下村治子様・山川壽賀様・坂口明日香様
渡邊敬太様・須田元美、節子様・山田宏子様・大田豊様・友兼光明様
中島明様・半田和美、勝宏様・熊本陽子様・坂村敬子様・清水宏様
大西正和、陽子様・渡辺泰雄様・辻倉剛太様・磯貝愛子、和宏様
三木雅子様・中村宏之様・長谷川水産様・藤田綾子様・松永時子様
寺嶋公子様・植村久志様・片山陽子様・山本美妃様・神田道代様・伏見元允様
安倍日出夫様・林笑美子様・田中真理子様・石原公子様・川下裕治様
匿名の方 ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。

「あかねはうす」のご紹介

さて、緑台 6 丁目には、共働作業所あかね発祥の地「あかねはうす」があります。

現在、あかねはうすでは、川西市内のあらゆる場所に配達している「あかね弁当」作りや、食堂としてお昼の定食をお出ししたり、喫茶として地域のみなさんで賑わっています。そこでは、作業所メンバーも数名、厨房でのお仕事に従事しています。昨年は宿題おわらせ会(学習支援)なども始まり、子ども達も集まってきています。

これから、地域の皆さんの憩いの場として、また、情報交換の場として、活用していただきたいと思います！

逆に我々も「あかねはうす」を地域の情報発信の場として、皆さんにどんどんご紹介していきます。ぜひ、一度、のぞきにきてくださいね。



行商・個宅販売先を 探しています。

あかねの活動のなかで、大きな柱となっているのが「行商、個宅販売」です。地域で生きるあかねは、作業所で制作している焼き菓子やあかね旅行の際に現地で見つけた「おいしいもん♪」を携えて、各お家や川西市内の学校、幼稚園などに販売にでかけています。メンバーも増え、もっといろんな場所に出かけて、皆さんにあかねを知ってもらいたい、「おいしいもん♪」をお届けしたい！

つきましては…

- ・月に一度ぐらいのペースでお家で販売させていただける方
 - ・扱っている商品のパンフレットを、お届けさせていただける方
 - ・お昼のお弁当配達ご希望の方…など、ぜひ、ご連絡いただけないでしょうか？
- よろしく願います。



グループホーム生活支援

・ガイドヘルパー募集中です！

～お気軽にお電話ください！～

**ボランティア
募集中**



～左記に関するお問い合わせ先～

川西市共働作業所あかね

〒666-0017

川西市火打 1 丁目 12-16

tel/072-755-4101

fax/072-744-5822

川西市共働作業所 あかね

共に学び、共に育ち、共に生きる

一押し!人気 Sweets menu

できるかぎり安心・安全な素材を吟味し、ベーキングパウダーなどの添加物は使用せず、一つ一つ丁寧に焼き上げました。

● マドレーヌ（150円）直径10cm

ほんのりレモン風味、卵たっぷりマドレーヌ。

国産小麦・よつ葉バター・きび糖・卵・レモンオイル



● ミックスクッキー（80g 280円）

4種のそれぞれ違う味わいを一度にお楽しみいただけます。

国産小麦・よつ葉バター・砂糖・卵・黒胡麻・抹茶

ココア・コーヒー



● チーズケーキ 一カット/280円・ワンホール/2100円 冷蔵

北海道産よつ葉クリームチーズ・よつ葉バター・国産小麦など

厳選素材を低温で長時間しっとりと焼き上げました。

クリームチーズ・よつ葉バター・きび糖・卵・生クリーム・

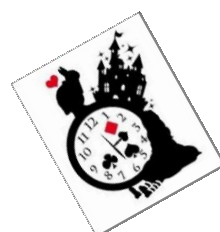
小麦粉・レモン・食塩



● パウンドケーキ 一切れ/110円 五切れ/530円

国産小麦とよつ葉バターをふんだんに使った無添加ケーキです。

- ・紅茶レモンケーキ
- ・梅ケーキ
- ・カシスとコアントローのケーキ
- ・オレンジケーキ
- ・フルーツケーキ
- ・ココアマーブルケーキ
- ・丹波の黒豆と抹茶のケーキ
- ・キャラメルエクルー
- ・こがしバターの塩ケーキなど



***2,000円以上のお買い上げで
ご自宅まで配達いたします!**
(川西市内、猪名川町その他近隣地域)

●あかねの掲示板・出店・行事予定●

- ・かわにし能勢口まつり……………8/10（土）11（日）
- ・萩原夏祭り……………8/18（日）
- ・松が丘盆踊り……………8/24（土）
- ・多田小学校マーフェスティバル……………8/24（土）
- 能勢電鉄平野駅ケーキ販売……………月・水・金 11:00～13:00
- 藤ノ木公園ケーキ販売……………毎週木曜日 14:00

【お問い合わせについて…】

川西市共働作業所あかね 〒666-0017 川西市火打1丁目12-16

tel : 072-755-4101 ・ fax : 072-744-5822

e-mail : rassyai-akane@deluxe.ocn.ne.jp



お知らせ

あかねホームページ更新しました^_^;

長い間更新せずでしたが…これから頑張って楽しい情報をお知らせしますね

e-mail : rassyai-akane@deluxe.ocn.ne.jp



【編集後記】

暑い日が続いています。

今、あかねは夏祭り出店の真っ最中です。有難い事に毎年変わらずお声がけいただき、代々の職員、パート、ボランティアさんで何十年も大事に守ってきています。

ふと思う時があります、大事な出来事は何十年も変わらずあるけれど時は流れていくものでその時々時代や環境、携わる人間の変化は止まらない。だから、いつか変わっていく事を認め大事な出来事を守り、継続していくために自分がどう行動すべきか決める力、そしてそれを前向きにとらえていく強さが必要なんだろうなと思う、今日この頃です。

（竹内佳子）

